

# アワビ放流効果を高めるための 取組みについて

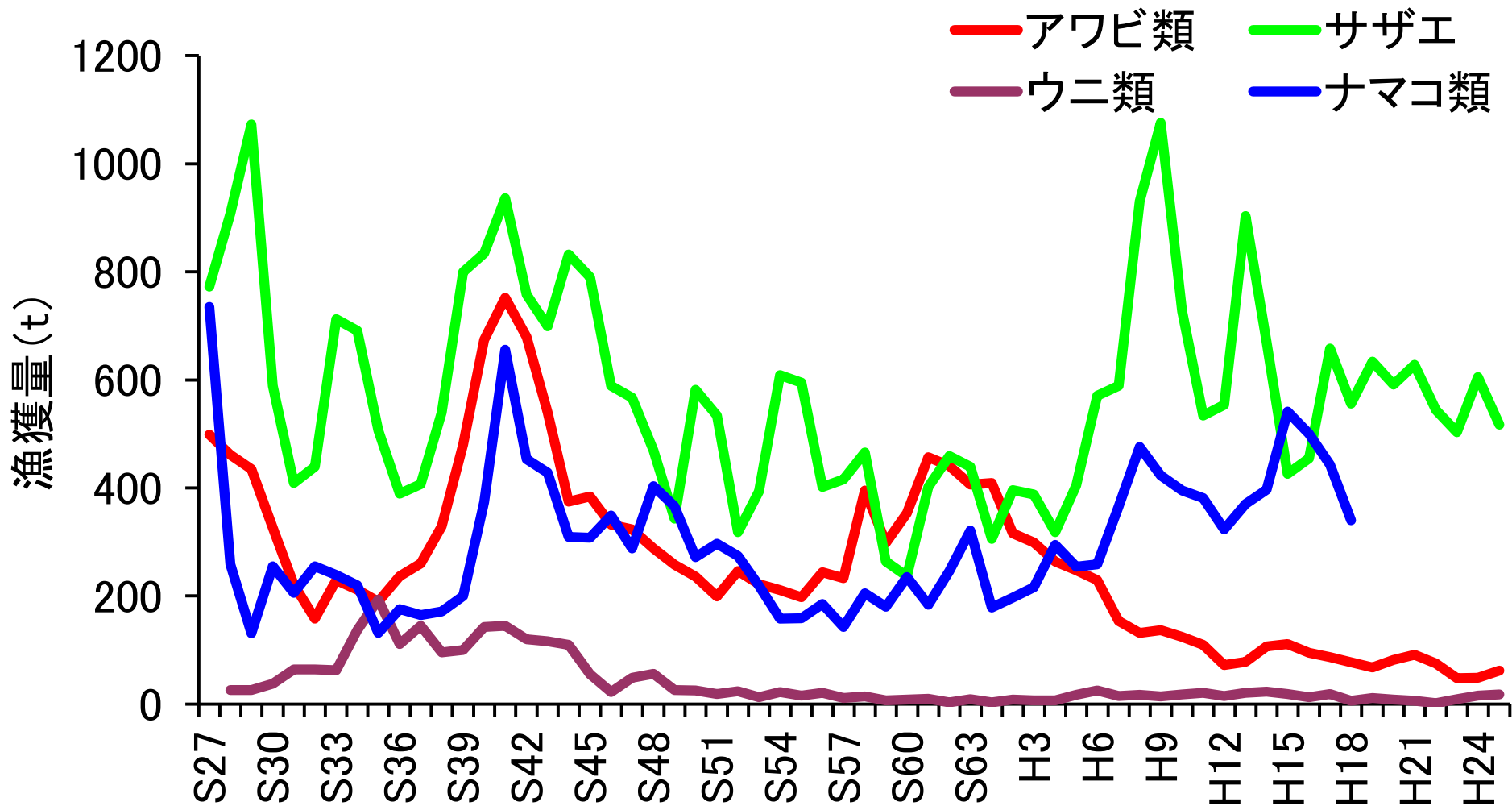


150622海女研究会  
三重県水産研究所  
阿部文彦

## 【報告内容】

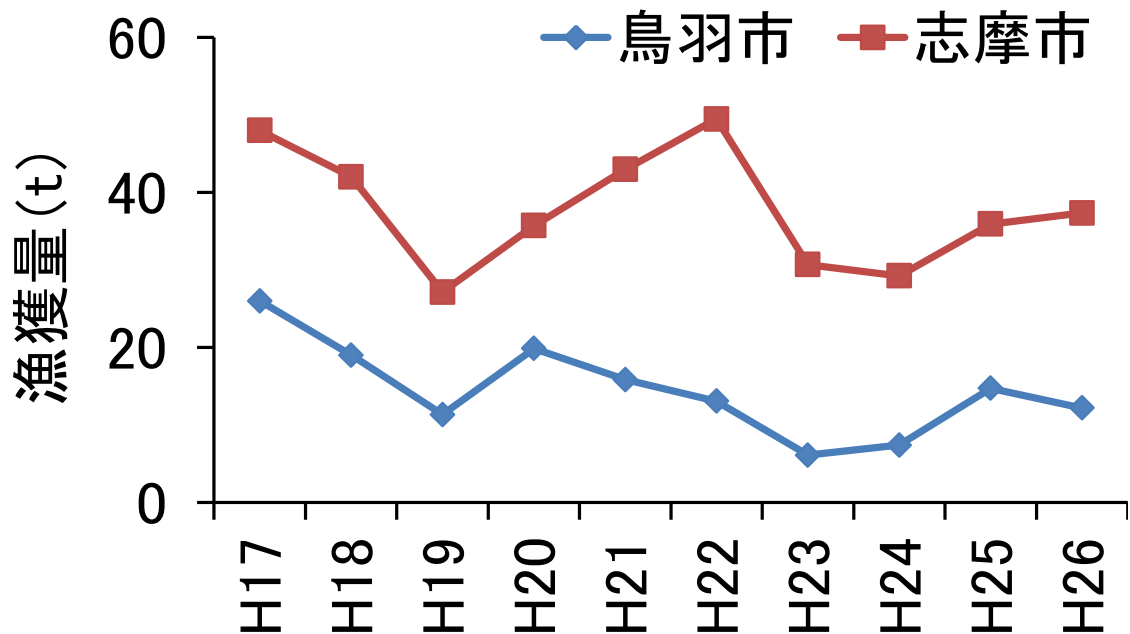
- ・アワビの漁獲動向
- ・アワビ種苗放流の現状と課題
- ・種苗放流の効果を高めるための取組み

# 磯根資源の漁獲量推移



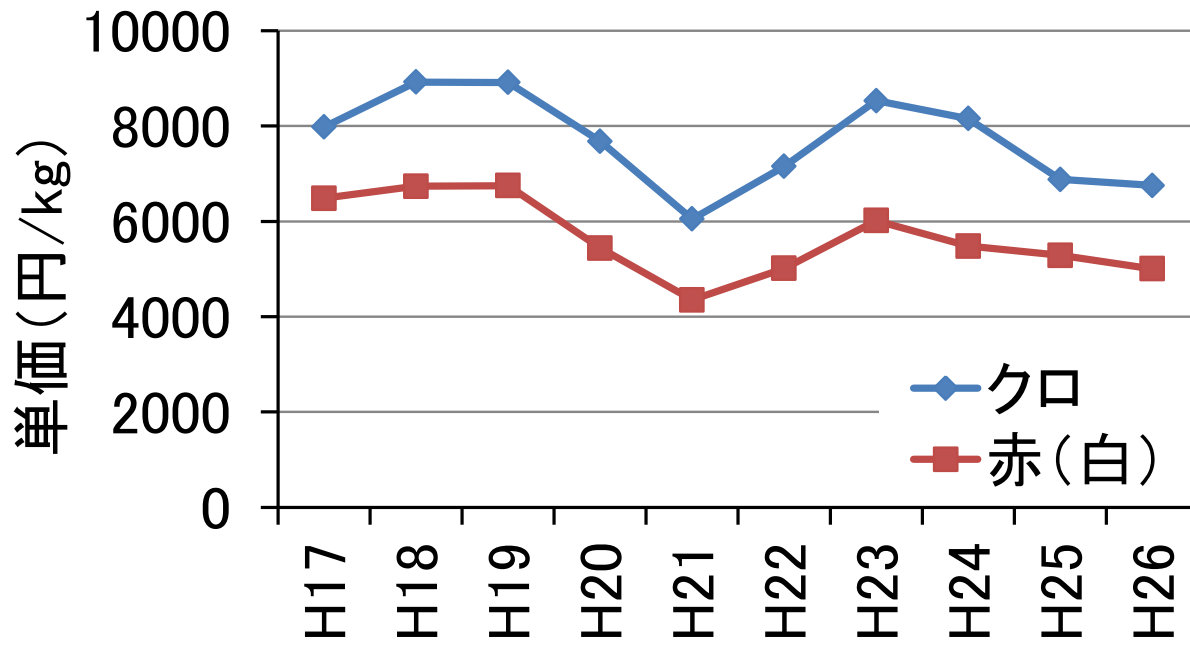
- ・アワビ類、ウニ類の漁獲量減少は著しい。
- ・上記2種類に比べると、サザエ、ナマコは安定している。

# アワビの漁獲動向(最近10年間)



## 【アワビ漁獲量】

H23~24年の低迷から多少回復。  
(H23年漁獲は県全体48tと統計史上最低値)。  
鳥羽、志摩の漁獲動向はほぼ同様。



## 【アワビの単価】

H23年以降、低下傾向。  
海女の漁家経営を厳しくしている。

# アワビ漁獲量の安定・増大のための種苗放流



アワビ種苗

【特徴】殻が緑色

【放流サイズ】3cm

アワビが育つ  
海へ放流

三重県では  
毎年約70万個



放流から**3年**以降、  
成長した種苗を漁獲  
(10.6cmより大)

# アワビ種苗の放流効果（現状）

- ・回収率は**変動が大きく**、平均すると**5%程度**。

回収率＝放流した種苗のうち、漁獲した個数の割合（%）



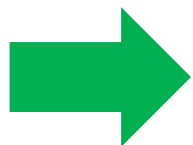
アワビ種苗放流マニュアル

（104年度 改訂版）

平成25年1月  
三重県水産研究所

漁獲の底上げと放流事業の採算性を考慮した  
回収率の目標は**10%以上**。

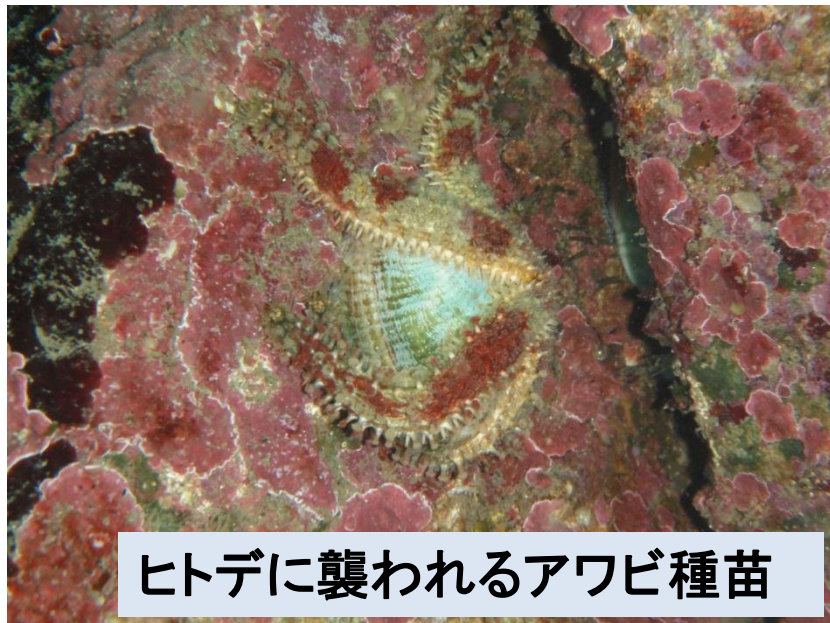
（三重県水産研究所アワビ種苗放流マニュアル）



**回収率の安定・向上が課題。**

# アワビ種苗放流の課題

## ・放流直後の食害



- ・死亡は放流直後に6割が集中
- ・死因の多くは食害(殻が破損)



## ・漁獲が難しい

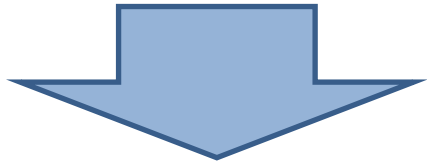


- ・複雑な地形はアワビの生息に適するが、漁獲が難しく、獲り残しも多くなる。

# 放流効果の向上のために

放流効果の向上のためには、

- ①アワビ種苗が害敵に食べられにくくする対策
- ②害敵駆除など漁場管理や成長したアワビの漁獲がしやすい新しいアワビ漁場の造成を図る必要がある。

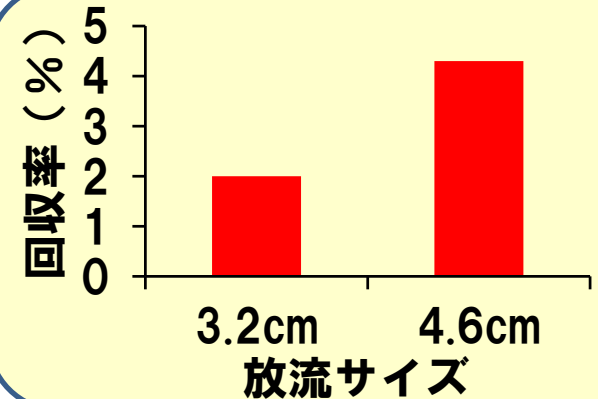


①害敵対策として...

- ・アワビをもっと大きく育てて放流する

②新しいアワビ漁場について...

- ・コンクリート板を使った漁場をつくる





# 大型アワビ種苗の育成・放流試験

大型アワビ種苗は放流効果向上に有効だが、入手が容易ではない。



海女自身がアワビ種苗を育てることができれば・・・  
H26年、鳥羽市の海女がチャレンジすることに！

## 【目標】

3cmの稚貝を海女が5～12月に育てて  
5cmの稚貝1000個として放流する。



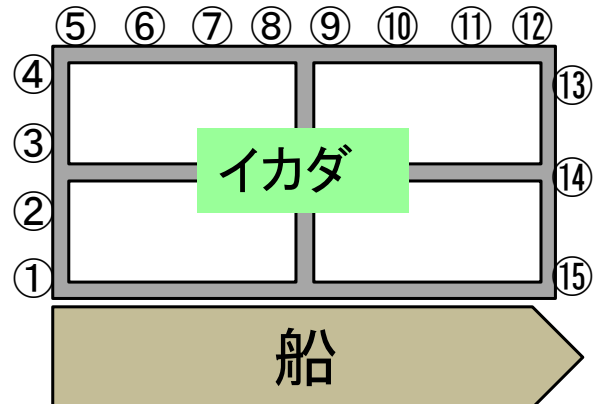
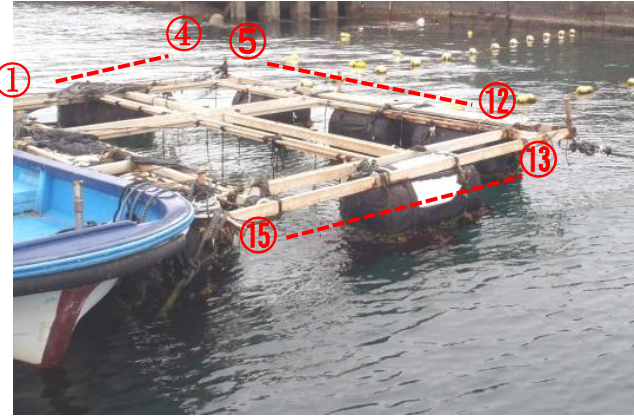
# 【方法】

①平均3.5cmの稚貝、1459個（タグ付き）を準備。  
蓋付カゴ（15カゴ）に100個ずつ収容。



②カゴを鳥羽市A漁港内のイカダに吊るす。

水深2m程度



### ③エサを与えて育てる。

#### 頻度:

週1回(5~12月)

#### エサ:

アラメ・カジメ(新しければ、ちぎれたものでも可)

#### エサの量:

1週間後でもアラメが少し残っている程度



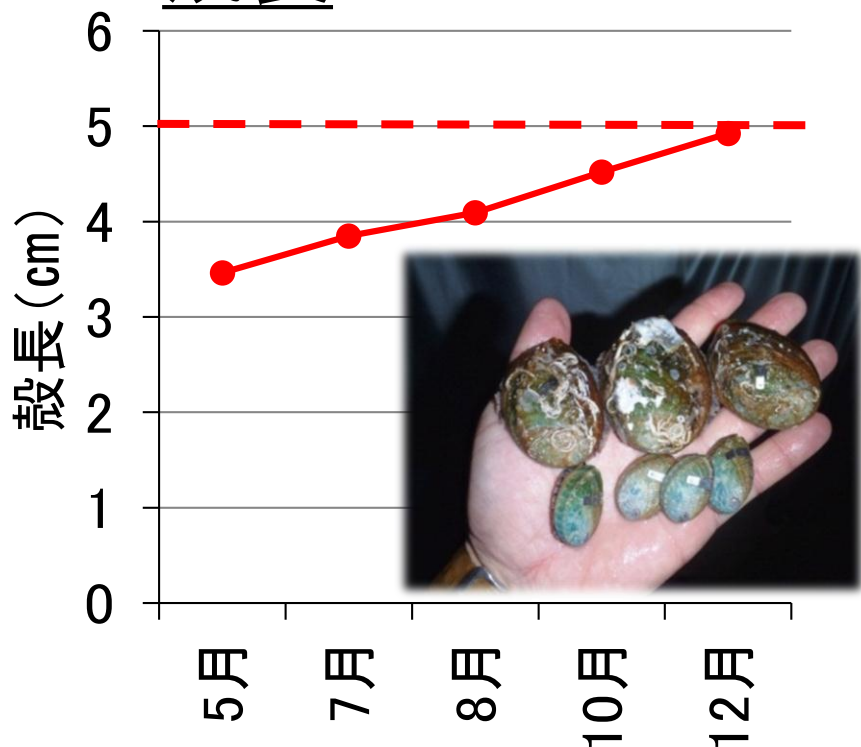
地区の総会で海女に説明。  
当番制で育成を実施することに。



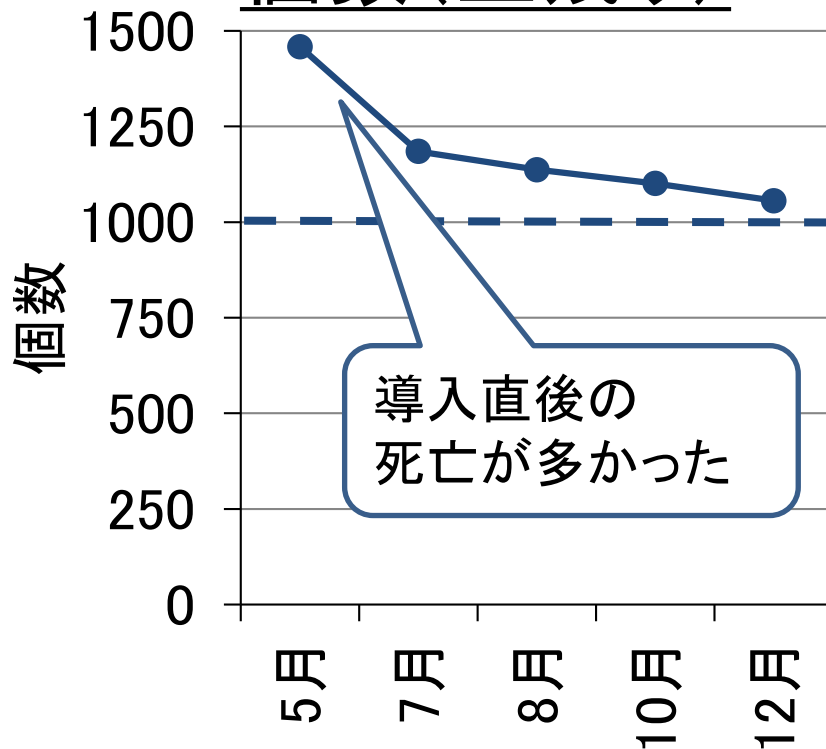
3名ずつの海女が週1回給餌作業。  
餌(アラメ)は海女漁の合間に確保。

# 【結果(H26.5~12月)】

## 成長



## 個数(生残り)



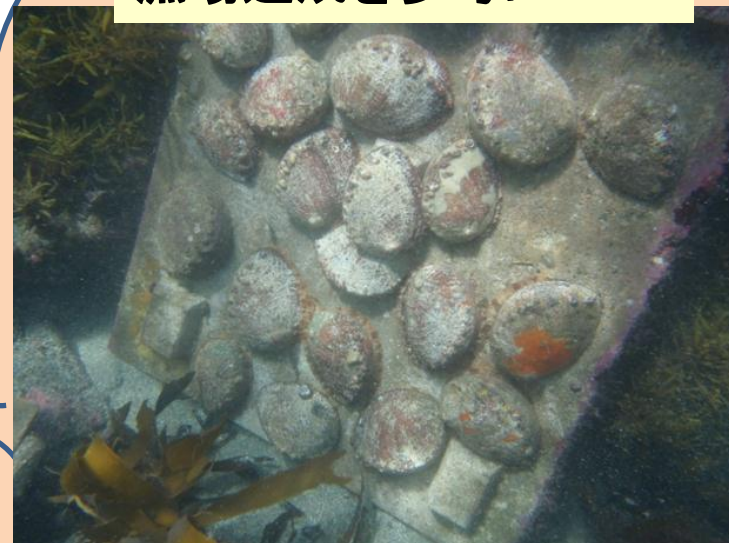
3.5cmから7ヶ月(12月)で4.9cmに成長  
1056個が生残(歩留まり72%)

➡ ほぼ目標達成(目標: 殻長5cm、1000個)

# 育てたアワビは、コンクリート板で造った漁場へ放流



千葉県で成功している  
漁場造成を参考に



写真は、第60回千葉県水産業青壮年女性活動実績  
発表大会「未来へ受け継ぐあまの志」より転載)



H26年度に鳥羽市と志摩市に  
1ヶ所ずつコンクリート板漁場を造成

コンクリート板は海女がひっくり返すことができる。

コンクリート板をひっくり返すことで、裏側のアワビを簡単に漁獲できる。→回収率の向上につながる。

## ● 放流後のアワビ種苗の様子



- ・放流から3ヶ月後(H27.3月)で、**大型アワビ種苗の歩留まりは4割**と推定。

※3年後に1割(10%)残っていれば、**目標達成。**

数が減るのは、  
死んでいるのではなく、移動して  
いるとみられる。

- ・大きなアワビほど移動性が大きくなる？
- ・害敵生物？

# 害敵生物のヤツデヒトデ

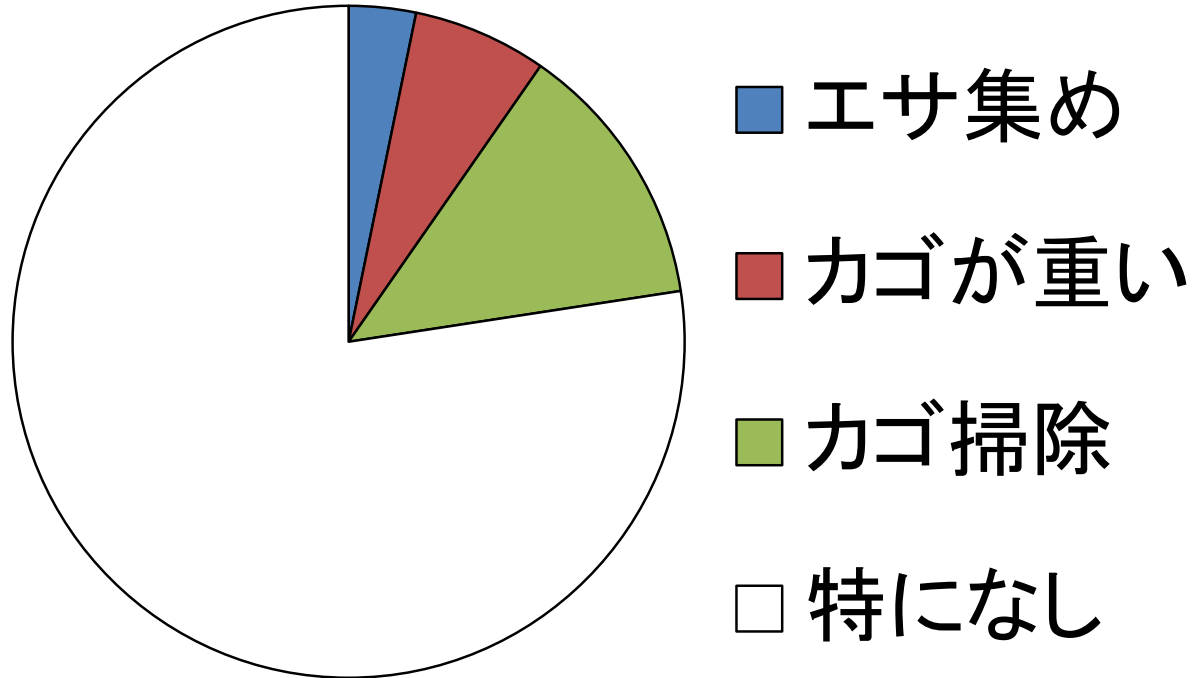


移動していく原因のひとつ。出現状況を継続調査。



# 【アワビを海女自身で育ててみた感想】

(アンケート)大変だったこと



カゴの取扱い

→もっと楽にできれば・・・

H27年度は、もっと数多く、作業効率よく、大型アワビ種苗を育てる方法を検討。



(2×2×2mの生簀)



韓国式  
シェルター

- **韓国のアワビ養殖(海面の小割生簀でのアワビ養殖)**を参考に、放流用の大型アワビの育成を目指す。
- 小割生簀を使うメリット
  - 作業性の向上**: カゴの引上げがなくエサやりもしやすい。
  - 飼育規模の拡大**: 小さな面積で飼育数を多くできる可能性あり。

(H27年度水産研究所)

## アワビの放流効果を高めるための取組み



### ①放流種苗の大型化

- ・カゴ式(他地区への普及)
- ・小割生簀式(さらなる効率化)



### ②アワビ種苗の放流漁場づくり

- ・放流したアワビ種苗の生残、成長の追跡調査  
(コンクリート板漁場の有効性の検証)

今後もアワビ放流効果を高めるための調査を継続し、成果の報告・普及をしながら海女漁業の振興につなげていきます。

